**【例】学習支援が必要な児童の「個別の指導計画」（○学期版）○年○組○○○○**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習面（全般） | 生活面 |
| 現在の様子  (課題) | ①授業中度々離席したり、仲のよい友達と大きな声で私語をはじめたりする。  ②ノートに板書を書き写す際、他の児童に比べ時間が大幅にかかり、全てを書き終えられないことが多い。 | ①文房具等、友だちの物を勝手に使い、返さないことが多い。  ②遊びの勝ち負けにこだわり、負けそうになったら怒りだしたり、友だちのミスを過度に責めたりする。 |
| 支援の目標  （二学期末の姿） | ①１つの活動が終わるまで（おおよそ１５分間をめやす）活動に続けて取り組む。  ②次の日のノート提出までに、全ての板書を書き写す。 | ①どうしても必要なときには、「貸してください」と言ってから借りる。  ②負けたときにはその場を一旦離れ、落ち着いてから活動や集団へ |
| 支援の方法 | 【①の目標に向けて】  ・授業のスケジュール（活動の順）を黒板に示し、終わった活動を順次消す。  ・「先生の話（説明）」「書く」「話し合う」など、授業中の活動を明確に区切る。  ・各活動をおおよそ１５分間程度にする。  【②の目標に向けて】  ・板書計画と同じ枠のワークシートを準備する。（例：黒板を３分割して使う場合は白紙を３つに区切った枠を準備する）  ・板書量が多い場合には、デジタルカメラ等で板書を写すことを許可し、宿題としてノートに写すようにする。 | 【①の目標に向けて】  ・忘れ物がないように、持ち物チェックリストを渡し、家庭で前日に持ち物の準備をする。  ・勝手に使った場面を捉えて、借りるときには「貸してください」ということを教える。  ・｢貸してください｣をきちんと言えた際には大いに賞賛する。  【②の目標に向けて】  ・空き教室の一角をクールダウン用の場所として準備する。  ・負けたときには、悔しい気持ちを受容しながらクールダウンの場所へ誘い、落ち着くまでいてよいことを伝える。 |
| 評価  （成果・課題） | ①「書く」活動や「話し合う」場合は、離席等せずに続けて取り組めるようになった。教員の話を聞く際に、キーワードを書いて提示するなどの支援を加えて行うようにする。  ②体調不良時以外は、全ての板書をノートにまとめられるようになり、授業中の挙手や発言も増えてきている。 | ①忘れ物が減り、友だちの物を借りる機会自体が減少した。借りた後に思い出して｢貸してね｣と言うことが増えてきた。今後は返すことが定着するように、帰りの持ち物の確認を行う。  ②怒りながらもクールダウン用の場所へ自分から行くことが見られてきた。引き続き支援を行う。 |